



第 1 号

昭和 40 年 6 月

---

発刊にあたって

四十年 度 試 験 調 査 事 業 の あ ら ま し

道 東 漁 業 関 係 者 の 要 望

試 験 船 の 動 静

さ け ・ ま す 漁 業 の 概 況

---

北海道立釧路水産試験場

## 発刊にあたって

場長 桜井基博

この小冊子を発行するに当つて一番始めに考える事は漁村の皆さんがどんな内容でどんなスタイルにすれば読んでもかという事であつた。勿論予算がついたから発行するのではなく皆が読んで其の結果少しづつでも何かの役に立つ事を願うからである。私は漁村の人達、特に青壮年の人とは話合う機会にめぐまれ、教えきれない程会合に出席し、その都度経験する事はどんな内容の話でも眼を輝かせ乍ら、何でも知つてやろうという気構えが旺盛している事である。この智識慾と水試だよりを上手に組合せる事に依つて我々の目的の半ばは達せられると考えた訳である。

どんな避地に住む人でも新聞を読まない人はいない。矢張り毎日の生活に必要であるからである。

五月十三日水産試験研究連絡協議会に計つた結果この発行は喜ばれ期待もされたが結論としては縦書である事、外国語を使用しない字体は大きく興味の持てる内容とする事に落着いた。方針としては之からの漁業を担う青年婦人層を対象とする様に考えているが然し読む人達の意見で内容、体裁は如何様にも改められるので之を読む一人一人が編集者になつた積りで意見なり地元の特異な現象等を報告して頂き研究と産業の隔りを順次縮めて行き度と思つてゐる。

## 布 昆 寄

◆ 今年は釧路水試発展の年で、場員一同はり切つています。しかし問題が山のようにあつて前途は多難です。私たちと漁業者の皆さんが互に仕事を理解し合つて道東漁業を発展安定させるための話し合いの場がこの小冊子です。

◆ 場長のごあいさつにもある通り、これは水試からの一方交通でなく、皆さんからの投稿投書によつて内容をもりだくさんにし、みんなのためになるようにしたいと思います。どんなことでもよろしいです。気のついたこと、変つた事柄、意見、希望、質問をお聞かせ下さい。

◆ 出来るだけ読みやすく簡単にとの御希望に程遠いものになりました。昔から役所の文章ほど読みにくいものはないと云われます。この小冊子の中味だけは役人根性を一日でも早くなくしたいと思ひます。もちろん日頃の行動も同じようにながります。

◆ 第一号は発行がおくれましたので、とりあえず、今年の仕事のお知らせと急を要するものだけにとどめました。次号からは色々な記事を取りあげて行きたいと思ひます。何しろみんな素人ばかりですから、よろしく御声援下さい。

(編集子)

## 四十年年度試験調査事業のあらまし

今年の釧路水試は新しい建物と設備、気力にあふれる人、独立した予算のもとに、いよいよ道東の漁業発展のため本格的な仕事にとりかかっています。次に今年の事業のあらましをお知らせし、みなさんの御協力をおねがいします。

### 沿岸および沖合資源調査と漁業試験

#### (担当 漁業資源部)

#### 1 沿岸漁業資源及び漁場に関する調査研究

道東海区は、本道漁業の中心的な役割りを果しておりますが、その内容を見ますと、サケ・マス・サンマ・サバ・イカ等の基地漁業といわれるものの比重が非常に大きく、地元沿岸漁業は他の海区に比べますと、まだ良い条件に置かれてはおりますが、先進地の過去の状態からみまして、今後必ずしも樂觀を許されませんので、それぞれの地域の魚類資源の状態をくわしく調査し、その現状と見透しを明らかにしまして、今年から始まる沿岸漁業の構造改善事業と対応させまして、沿岸漁業の安定と、その発展を計りたいと考え、次のような調査を行います。

#### (1) 沿岸漁業資源並びに漁業経営試験

この調査は、今年で五年目を迎えますが、本調査を通じまして、直接沿岸漁業の構造改善事業につくしたいと思っております。

#### (2) エビ漁場調査

この調査は、備船(第三新栄丸一トン)によりまして五月上旬から、十月中旬まで小型底曳網、刺網、延縄を用い道東の各沿岸で海上調査を行います。陸上の調査は周年実施します。主として昨年と違う点は次のとおりです。(1)海上と陸上で産卵群と幼稚仔の調査をして、資源の予測資料にします。(2)カレイ類につきましては、飼育実験を実施しましてどのような状態で産卵が行われるかを調査します。(3)カレイ刺網漁業の企業化試験を七月から九月まで広尾方面で行います。

この調査は、沿岸資源調査の一環として、委託調査船一隻(第八琴平丸)につきましては周年、釧路における三〇隻のエビ桁網漁船につきましては月二回、海区を指定しまして調査をし、釧路近海のエビ漁業を何

時までも安定させようとするもので、主として昨年と違う点は次のとおりです。(1) エビの飼育実験を行いました。産卵の状態を調べます。(2) エビ資源の減少傾向から、新しい漁場の開発を計ります。(3) 南千島方面のエビ資源の調査を行います。

#### (3) 底魚資源調査

この調査は、沿岸資源調査と密接な関連のもとに、底曳委託調査船釧路丸によりまして道東沖合の底魚資源を周年にわたつて調査をするものです。

以上によりまして、沖合海区は釧路丸、水深二〇〇米内外の海区は第八琴平丸、これより以浅の海区は第三新栄丸というように、組織的に調査を行う予定です。

#### (4) ニシン調査

厚岸近海のニシンは、近年の年令組成と漁獲の状態からみまして、樂觀の出来ない資源状態にあると思われまますので、周年にわたつて、道東近海の色々な漁業から資料を集め、資源の動向を明らかにして行きたいと思っております。なお、十一月下旬から四月下旬まで、月二回漁況速報を発行します。

#### (5) タコ礁造成の調査研究

タコにつきましては、昭和三十六年から調査しており、資源の効果を利用のため

には、人工増殖を計らなければならぬ状態に來ておりますので、資源保護の第一段階としてタコ礁を造成し産卵群とその子供を保護する調査研究を四月から翌年の三月まで白糠沿岸で行うものです。

2 沖合漁業資源並びに漁場に関する調査研究  
道東海域はサケ・マス・サンマ・サバ・イカ等の重要な漁場となつておりまして、これ等の魚は広い海域を洄遊しますので、全国的な調査の一環として関係機関とよく協力し、調査を行うものです。またこれ等の表層を洄遊する魚の獲れる、獲れないは海の状態に非常な左右されますので、色々な方面から調査をしまして、出来るだけ正確な漁況の予報を行つて、漁民の方々のお役に立つようになりたいと考え、主として次のような調査を行います。

(1) サケ・マス漁場調査

北洋サケ・マス調査の一環としまして、四月中旬から八月中旬まで試験船光洋丸(二〇トン)を使い、北緯四八度以南のサケ・マス資源の状態を調べまして、日ソ漁業会議の資料を作成すると同時に、漁期間中毎日無線で漁況を放送したり、十日毎に印刷物で詳しく漁業の人達の参考にするものです。

(2) サンマ漁場調査

全国的なサンマ調査の一翼をにないまして関係機関と協力し、八月の上旬から十月下旬まで、光洋丸(二〇トン)を使用して、中南部千島から三陸沖までの海域を調査し、サンマ資源の動向や、魚群の行動を明かにしまして、漁期中毎日漁業無線や、ラジオを通じて漁況を放送すると同時に十日毎に印刷物で詳しく漁況や、予報を広報して、皆さん方のお役に立てるものです。

3. 漁況海況予報調査

水産庁の、漁況予報事業の実施要領にもとづきまして、道東海域のサンマ・サバ・クルマイカおよびサケ・マス・ニンシンの主な魚を対象に、周年にわたつて漁況と、海況を調査し、この結果を迅速に報導して関係方面のお役に立たせるもので、前に述べました色々な調査事業と密接な関連のもとに、効果の上のように実施をするものです。

浅海の海藻、貝類の増養殖試験

(担当 増殖部)

1. コンブ漁場の開発試験

道東コンブの主体となつてゐるナガコンブ

とアツバコンブ(ガツガラコンブ)の生活の様子や生育場所の特徴を調らべ、それぞれのコンブに良く合つた増殖方法を試験します。またナガコンブの実入りを調査してコンブ解禁日を決める資料をつくつてゆく予定です。

場所と時期、釧路、浜中、周年

2 貝類の種苗生産試験

道東のホッキガイ漁場の実際の様子を一部をのぞき、ほとんど知られていないので、各地区の漁場のホッキガイの資源調査、特に稚貝や若令貝についてくわしく調べます。

またホタテガイの採苗、中間育成などについても調査しこれらを通じて稚貝移植とその効果および資源の正しい管理方法を指導します。

場所と時期、釧路、浜中、厚岸、別海周年

3 ノリ、ワカメ養殖試験

最近ノリ、ワカメ養殖は沿岸漁業者の間で大きな関心を持たれていますが、まだ一般的に基礎になる技術が充分でなく生産量も少ないので種苗の安定した生産供給、生長成熟調査、収量向上を目的とした技術改善試験と指導を行う予定です。

場所と時期 根室、厚岸、浜中 周年

#### 4 その他の調査と指導

##### (1) 大型魚礁の効果調査

釧路沖大型魚礁について魚獲調査を行います。

##### (2) コンクリートブロック昆布礁効果調査

浜中では新しい型のブロック二種について試験を行います。根室、広尾は従来通り。

##### (3) 海藻類養殖事業指導

ノリ、ワカメ養殖を行っているところに対して巡回指導を行い管理技術の向上を計ります。

#### 水産物の利用加工試験

##### (担当 加工部)

##### 1 水産物の乾燥に関する試験

水産漁獲物には水分量が多いため、腐敗し易くその貯蔵方法は種々ありますが、乾燥脱水による貯蔵法が簡単で、かつ漁村では一般に行われているのでこの方法の合理化を計つて行きます。

##### (1) コンブ機械乾燥試験

コンブは沿岸漁獲物の中でも重要な製品ですが、その処理加工は天日乾燥によるため自然条件(天候、シケ)によつて生産が制

約され、また干場の状態によつて砂付き、乾燥能力の低下など品質を悪くする原因となつています。それでこれらの悪条件を解消するため機械による人工的な乾燥試験を行つて乾燥の能率化と品質の向上を計ります。

##### 実施時期 六月下旬～十月

##### 実施場所 浜中町(霧多布)

##### 主な試験事項

イ、機械処理行程の検討

ロ、機械製造経費の調査

ハ、天日乾燥と機械乾燥の比較

##### (2) その他の乾燥試験

水産物の干製品には素干、煮干、塩干、凍干など色々ありますが、これらの製品は魚種や肉成分により気候に適した方法がとられているもので、それぞれの乾燥条件の違いを明らかにし機械乾燥製品の品質向上のための基礎資料をとのえて行く予定です。

##### (2) 利用加工に関する試験

道東は漁業生産物が多いが有効に利用されている種類が少ないので、今まで商品価値の低かつた魚貝、藻類を対象にして加工方法の開発と普及を行います。

実施時期 周年

実施場所 根室、釧路十勝支庁管内主な試験事項

##### (1) 低利用未利用資源の調味加工試験

イ、低利用未利用魚貝類の加工法の検討

ロ、低利用未利用漁獲物の調査

魚期別 魚獲量 魚獲物の成分

ハ、遊休施設の活用法の検討

##### (2) 魚卵製造の基礎試験

イ、魚期別 場所別 鮮度別の成分調査

ロ、水子卵の脱水法の検討

ハ、スケンバラ卵の新製品の試作

#### コンブの生育調査について

今年にはコンブの不漁が全道的に話題になり大変心配されています。新聞を見ると全道の生産予想は約二一、七五〇トン(約十四万五千石)で戦後最低と言ふことです。今年には各地で流水被害や低水温のために生えがうすい、長さが短かい、実入りが悪いと言ふことです。すでに各組合は夏コンブの開禁日が決つたことと思ひますが、水産試験場でもこの状況を心配して一日でも早く生育状況を確認したいと各支庁又は組合と相談して調査を実施中です。前浜のコンブの生育状況について実際に目を見たことをありのままに組合なり普及員なりにお知らせ下さい。皆さんがたの報告とコンブの測定を基に道東コンブの生育状況を出来るだけ正確に知りたいたいと思ひます。

# 道東漁業関係者の要望

## 四十年道東地域水産関係調査事業協議会より

去る五月十三日、水試会議室で十勝釧路根室全域と日高の一部の市町村、漁組および各支庁普及員など 名が会合し、四〇年度中にそれぞれの行方試験調査計画や水試に対する要望などを話し合いました。

この会議は昨年から始められたもので、水試と各市町村、漁組がお互に仕事の内容や日程に無駄のないように連絡をとりながら活動するとともに、水試の事業計画の中に浜の声を積極的にとり上げて行こうとするもので、今年度中に更に二回ぐらい行われる予定です。この会議の席上、別項のような水試事業計画の説明があつた外、参加者の中から色々な要望、質問が出されましたのでそのうちの主な要望を次に紹介します。

- (1) 毛ガニ籠の餌料として冷凍イカを使つているが高価なので、これに代る安価な代用餌料を研究してほしい(十勝支庁)
- (2) 広尾地方では各種の揚縄機を使用しているが安価で能率的なものを研究し普及してほしい(広尾)

- (3) 羅臼海域のヌルメイカの生態と回游について調査に協力してほしい(羅臼)
- (4) 冬期間の沿岸資源調査と四〜六月頃のカレイ幼魚の標識放流調査をしてほしい(歯舞、標津)
- (5) ホタテ採苗を地元で本格的にやつて行きたいので指導してほしい(根室湾中部別海)
- (6) ウニの移殖効果調査を行つているので指導してほしい(浜中、歯舞、野付、羅臼)
- (7) ラウモコンブの調査および根室湾内での移殖、養殖の可能性について基礎的調査をしてほしい(根室支庁、羅臼)
- (8) コンブの人工乾燥試験を実施する計画なので協力指導してほしい(広尾、羅臼、浜中、歯舞、釧路東部)
- (9) 未利用、低利用の魚貝、藻類(エビ、キウリ、ホッキ、イワノリ、マツモなど)の新しい利用法、又は加工法について研究指導願いたい(広尾、大樹、根室湾中

部)

10 年一回ぐらい現地を巡回して指導相談につてほしい(広尾、根室)

### 本誌の愛称を募ります

本誌に何か道東にふさわしい愛称をつけたいと思います。道東の風物や漁業にびつたりで、しかも親しみやすいい名前を皆さんで考えていただいて、その中から採用したいとおもいます。葉書、電話のついで、何でもけっこうです。良い名前をお知らせ下さい。切は七月二十日。

# 船の動静



## 1 運航実績

(1) 四月

(イ) 光洋丸

(直属) :

十五日釧路

を出港し、

北緯四八度

以南のサケ、

マス調査を行いました。

(ロ) 釧路丸(底曳委託調査船) : 釧路近

海において四月五日から、同下旬まで

底魚資源調査を行いました。

(ハ) 第八琴平丸(エビ委託調査船) : 釧

路近海において四月十三日から、同下

旬までエビ資源調査を行いました。

## (2) 五月

(イ) 光洋丸 : サケ・マス第一次調査を終

え、十日釧路に帰港し、十七日第二次

調査に出港しました。

(ロ) 釧路丸 : 釧路近海において五月中、

底魚資源調査を行いました。

(ハ) 第八琴平丸 : 釧路近海において五月

中、エビ資源調査を行いました。

(ニ) 第三新栄丸(庸船) : 二十日から釧

路近海で、沿岸資源調査を行いました。

## (3) 六月

(イ) 光洋丸 : 第二次のサケ・マス調査を

終え、十二日釧路に帰港し、十七日第

三次の調査に出港しました。

(ロ) 釧路丸 : ドックのため調査を休止し

ました。

(ハ) 第八琴平丸 : 上旬より、中旬まで釧

路近海でエビ資源調査、下旬は広尾近

海のエビ資源を調査を行いました。

(ニ) 第三新栄丸 : 上旬は、釧路近海で魚

場環境調査と、沿岸海区で幼稚魚調査

を行いました。また、中旬は霧多布、

釧路、白糠沖の魚場調査を行い、下旬

は、広尾近海で資源調査、並びにカレ

イ刺網漁具試験を行いました。

## 2 運航予定

(1) 七月

(イ) 光洋丸 : 十二日はサケ・マス第三次

調査を終え帰港し、十七日第四次調査

のため出港しました。

(ロ) 釧路丸 : 主として大黒島、花咲沖に

おいて底魚資源調査を行います。

(ハ) 第八琴平丸 : 上、中旬は釧路海谷部

のエビ魚場調査、下旬は広尾沖並びに

釧路近海のエビ資源調査を行います。

(ニ) 第三新栄丸 : 上、中旬は釧路支庁

沿岸海区において魚場環境調査と、幼  
稚魚調査、下旬は十勝支庁沿岸海区に  
おいて資源調査と、カレイ刺網の漁具  
試験、および釧路支庁沿岸海区の魚場  
調査を行います。



## さけ・ます漁業

### の概況

さけ・ます漁業が、五月一日より始まつておりますが、このごろの状況をおしらせいたします。

今年は、全般的に豊漁年にあつておりますのでさけ・ますの群も厚く出現し、沖合に出漁している流し網漁船、はえなわ漁船は好漁を続けております。しかし、全体的にみて豊漁年といつても、さけ・ますの魚群は、色々な地方で生まれたものが回游してきておりますので、出現する海域によつては不漁年の場合もあります。本道太平洋沿岸に来游するからふとますは、今年は残念ながら不漁年に当つておりますので、余り期待をもてなかつたのです。この群を良く利用している七屯未満の小型流し網漁船、一〇屯未満の小型はえなわ漁船は、現在のところ良くありません。ただ、ときしらずは例年より多く漁獲されており、その上、豊漁である沖合いのか

からとますの魚群は、昭和三十八年のように比較的西寄りになつておらず、東寄りに厚くなつていたので、現在の許可区域での好漁は余り多くを期待できない状態です。

さらに、今年の海の状態は、道東沿岸から三陸沖にかけ、昨年と同様に異常冷水におおわれておりました。六月になつてから、やつと表層のみは回復の兆候がみられておりますが、これが沿岸にからふとますの来游が少ない原因にもなつております。六月に入つて、ややからふとますの来游がみられてきました、この時期になると次第に回游速度が早くなるので、道東の西寄りの海域は多くを期待できないうでしょう。ただ、現在北緯四二度、東経一四八〜一四九度附近に、やや厚い大型の魚体をもつ魚群が出現しておりますが、この群は割合に沿岸に回游する傾向をみせますので、道東の東方海域、特に色丹沖、択捉沖にこれから出現すると思はれます。

ときしらずは比較的冷水に来游しますが、今年は例年より好漁ですし、定置網にも期待もてるでしょう。

沖合の状況をみますと、からふとますは豊漁年ですが、初漁期は小型のため流し網にからはず、もつばらははえなわによつて非常に良い漁が続きましたが、このごろになつて、やつとますも大型になり、流し網でも急激にか

らふとますの漁獲が増加し、豊漁年としての盛漁期になつております。

しろさけは、流し網、はえなわとも初めに期待した程の漁をみせておりませんが、昨年、一昨年のように狭い範囲での漁獲ではなく、広い範囲でやややすく出現しているようです。全体的にみて、今年は沿岸海域での漁は少なく、沖合の漁は昭和三十八年のような豊漁に恵まれると思つております。

## 釧路水試だより

### 第一号

発行月日 昭和40年 6月 25日

編集発行人 桜井基博

発行所 釧路市浜町16

道立釧路水産試験場

印刷所 釧路綜合印刷株式会社